

## ケアミックス型病院において回復期リハビリ病棟早期転棟は経済的か

風晴 俊之<sup>1)</sup> 木暮 美紀<sup>1)</sup> 平田 奏<sup>1)</sup> 角田 真里子<sup>1)</sup> 美原 盤<sup>2)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 事務部

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに]脳血管障害診療を主とするケアミックス型の当院では、回復期病棟(回復期)への転棟までの急性期病棟(急性期)在院日数は16日、他院から当院回復期に受け入れた場合の他院急性期在院日数は32日であった。そこで、32日急性期にいた場合と、16日急性期、16日回復期にいた場合の入院料につき検討した。

[方法]当院急性期に入院し回復期に転棟した患者の診断群分類番号上位3位において、32日急性期に入院した点数を算出、および急性期に16日、回復期(入院料1)に16日入院した点数を算出し比較した。

[結果]上位3位は脳梗塞(発症3日以内、JCS10未満)、非外傷性頭蓋内血腫(JCS10未満)、非外傷性頭蓋内血腫(JCS10以上)で、32日急性期に入院で9.6万~10.5万点、急性期から回復期に転床した場合9.0万~9.7万点であった。

[考察]診療報酬上、早期転棟に対するインセンティブが求められる。